

英語4技能講座

中高6年かけて学んでも「使えない」「話せない」英語にならないように。

Z会 Asteria では「実社会で生きて使える英語」を育みます。街に出れば英語が日常的に聞こえてくる国際社会の今。日本の英語教育は英語が“使える”ことに重きを置き始めています。これまでは文法を教えることから入り、習得した文法事項を使って文章の読解や英作文ができるかという問いかけが一般的でした。それらは教科・学問としての英語にとどまっていたと言えます。

Asteria の英語4技能講座は、従来の英語教育とは逆のアプローチを採用。「聴く」「読む」「書く」「話す」をお子さま一人ひとりのレベルに合わせ、“英語で何ができるか (Can-Do)” の観点で総合的に養成。iPad でのアダプティブ・ラーニングを通して、自分のペースで「英語を使って生き抜く力」を習得していきます。

そして本講座は国際規格 CEFR (セファール) にも完全対応。その言語を使って何ができるかを測る国際的な尺度に沿いながら、技能ごとのレベルアップへ。大学入学共通テストに採用される、CEFR で要求される実力を先取りして身につけていきます。

英語を活かす、英語で生き抜く

こんな方におすすめ

- 学校の授業や進学塾などでは対策が行いにくい、英語の発信力を高めたい方
- 学校の授業や進学塾で、「進度が遅い」「レベルがもの足りない」と感じている方
- 海外大学への進学、国際系大学・学部への進学、国内大進学後の海外留学などを希望されている方

英語教育が激変する時代に、 ふさわしい学びとは

監修者

投野 由紀夫 教授 (東京外国語大学)

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授。英国ランカスター大学で、博士号 (コーパス言語学) を取得。コーパス言語学を応用した語彙習得プロセスや言語習得モデルを研究。「その言語を使って何ができるか」を測る、言語能力の国際的な尺度である CEFR を、日本の英語教育に応用すべく、CEFR-J を開発。



今までの日本の英語教育では、英語は受験のための科目になりがちで、「大学に入ってから使えるスキルを育てる」という視点が抜けていました。そのため大学を出た人でも、国際標準である CEFR (セファール) でいうと、一番下のレベルの力しかないのです。本来、英語の学習では、文法や単語を覚えたなら、それを言葉としてどのように使えるかということが重要ですが、覚えたことを実際に使える力がつけられていなかったのです。

グローバル化が進み、日本も多言語多文化社会になっていくことが予測される中、生きていくための力としての英語力が強調され、2020 年度入試改革でも4技能を測る方向で検討がされています。大学入試が変わることで、中学・高校での英語の授業も変わっていくでしょう。

Asteria は今、世界中で使われている CEFR をもとにした日本初の教材であること、さらに4技能に対応しているところが強みですね。進行形 ing を習ったら、穴埋め問題をして終わるのではなく、目の前で起こっていることを実況中継する時に使えるというような、現実を使う場面につなげていくことで、実際に使える力をつけていきます。CEFR をもとにしているのも、学年や学校という枠を越えて幅広く応用が効き、非常に効果が高いと思います。

英語というのは言葉なので、勉強した後に言葉として何かが残っていてほしいと思うんですね。できれば、みなさんがこれから生きていくのに役立つものが残っていてほしいというのが、私の願いです。「役立つ何かを残す」には、英語を使う目的にあわせて学習を進めて力をつけながら、到達点を自分なりにイメージしていくことが大事だと思います。そういった学習を Asteria を使って始めていき、本当の英語力が身についたら、自立した学習者として、さらに深く自分自身で学んでいって欲しいと思います。